

令和5年度 宮城県立光明支援学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (後藤 麻里絵)

研究テーマ	児童生徒が安心して過ごし、分かる実感，できる喜びを味わう学びのために ～教員相互の研修を通して～																																																																						
研究目標	教員相互の研修を行い、教員同士が互いに励まし合い、認め合い、高め合う。																																																																						
研究内容・方法 研究計画等	<p>○教員が講師となって年間を通してミニ研修会を行い、日々の授業づくりや実践に生かせるように設定した。アンケートや希望調査を行い、以下の研修計画を設定した。</p> <table border="1" data-bbox="545 607 1345 1115"> <thead> <tr> <th rowspan="2">場所</th> <th rowspan="2">日付</th> <th colspan="4">本校舎</th> <th colspan="3">小校舎</th> </tr> <tr> <th>視聴覚室</th> <th>中高A プレ</th> <th>中央棟2F プレイルーム</th> <th>2音</th> <th>プレイルーム</th> <th>ホール</th> <th>一研</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>7/25 (火)</td> <td colspan="7">情報教育部「GoogleWorkSpace の活用」 対象：全教員 場所：各校舎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8/29 (火)</td> <td>ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～</td> <td>静的他導誘導法</td> <td>自閉症スペクトラム児のための応用行動分析学</td> <td>打楽器を用いた授業の実践例</td> <td>給食指導</td> <td>制作活動に仕込む仕掛け</td> <td>失敗例に学ぶ保護者対応のコツ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9/12 (火)</td> <td>働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～</td> <td>スイッチを作ってみよう</td> <td>総合的な探究の時間の基礎理論</td> <td></td> <td>遊びの指導について</td> <td>制作活動に仕込む仕掛け</td> <td>発達障害の基礎知識 (物心向け)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10/24 (火)</td> <td>ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～</td> <td>ヨガセラピーの理論と実践</td> <td>色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～</td> <td>打楽器を用いた授業の実践例</td> <td>小学部からできる進路指導</td> <td>合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)</td> <td>失敗例に学ぶ保護者対応のコツ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11/21 (火)</td> <td>働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～</td> <td>スイッチを作ってみよう</td> <td>支援学校を卒業した生徒の生活について (日課程の主眼を中心にして)</td> <td>やってみよう リトミック</td> <td></td> <td>事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～</td> <td>難聴のある児童生徒への具体的な支援</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1/16 (火)</td> <td>総合的な探究の時間の基礎理論</td> <td>静的他導誘導法</td> <td>色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～</td> <td></td> <td>小学部からできる進路指導</td> <td>合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)</td> <td>事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～</td> </tr> </tbody> </table>	場所	日付	本校舎				小校舎			視聴覚室	中高A プレ	中央棟2F プレイルーム	2音	プレイルーム	ホール	一研		7/25 (火)	情報教育部「GoogleWorkSpace の活用」 対象：全教員 場所：各校舎								8/29 (火)	ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～	静的他導誘導法	自閉症スペクトラム児のための応用行動分析学	打楽器を用いた授業の実践例	給食指導	制作活動に仕込む仕掛け	失敗例に学ぶ保護者対応のコツ		9/12 (火)	働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～	スイッチを作ってみよう	総合的な探究の時間の基礎理論		遊びの指導について	制作活動に仕込む仕掛け	発達障害の基礎知識 (物心向け)		10/24 (火)	ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～	ヨガセラピーの理論と実践	色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～	打楽器を用いた授業の実践例	小学部からできる進路指導	合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)	失敗例に学ぶ保護者対応のコツ		11/21 (火)	働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～	スイッチを作ってみよう	支援学校を卒業した生徒の生活について (日課程の主眼を中心にして)	やってみよう リトミック		事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～	難聴のある児童生徒への具体的な支援		1/16 (火)	総合的な探究の時間の基礎理論	静的他導誘導法	色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～		小学部からできる進路指導	合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)	事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～
場所	日付			本校舎				小校舎																																																															
		視聴覚室	中高A プレ	中央棟2F プレイルーム	2音	プレイルーム	ホール	一研																																																															
	7/25 (火)	情報教育部「GoogleWorkSpace の活用」 対象：全教員 場所：各校舎																																																																					
	8/29 (火)	ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～	静的他導誘導法	自閉症スペクトラム児のための応用行動分析学	打楽器を用いた授業の実践例	給食指導	制作活動に仕込む仕掛け	失敗例に学ぶ保護者対応のコツ																																																															
	9/12 (火)	働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～	スイッチを作ってみよう	総合的な探究の時間の基礎理論		遊びの指導について	制作活動に仕込む仕掛け	発達障害の基礎知識 (物心向け)																																																															
	10/24 (火)	ICT を活用した業務改善研修 ～動画作成や教材・資料作成等～	ヨガセラピーの理論と実践	色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～	打楽器を用いた授業の実践例	小学部からできる進路指導	合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)	失敗例に学ぶ保護者対応のコツ																																																															
	11/21 (火)	働き方改革のためのPC講座 ～ショートカットキーの使用～	スイッチを作ってみよう	支援学校を卒業した生徒の生活について (日課程の主眼を中心にして)	やってみよう リトミック		事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～	難聴のある児童生徒への具体的な支援																																																															
	1/16 (火)	総合的な探究の時間の基礎理論	静的他導誘導法	色そろばん ～計算指導の新しい方法と理論～		小学部からできる進路指導	合わせた指導の必要性について (特に遊びの指導の考え方)	事例研修(小学部)～明日からのより良い指導につなげるために～																																																															
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>○研究経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に講師の募集を行った。研修会の内容や時間は、ある程度自由に設定してもらい、講師も参加者も気軽に研修ができるようにした。講師の先生の専門は多岐にわたり、一覧に示したような内容の講義を設定することができた。その後希望アンケートを採り、人数の調整を行った。 ・1回目の研修では情報教育部主任が講師に迎え、全校で「GoogleWorkSpaceの活用」についての研修を行った。Googleドライブや GoogleMeet、Classroom など、十分に活用できていなかった内容について、それぞれのPCやタブレットから具体的に操作をしながら全教員で研修をし理解を深めた。また、オンラインでの研修会の行い方を学び、今後の研修会の方法を上げた。2回目以降の研修内容は研修計画に沿って行っている。 <p>○研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの研修会場では先生方が講師となった。多くの資料が提示され、実践例を聞いたり経験を話し合ったりすることで、実り多い研修となっている。研修後のアンケートからは、「具体的な内容で良かった。」「給食指導については明日から取り入れてみたい。」「今後の保護者対応のヒントになった。」など、毎日の実践に生かせると感じている教員が多かった 																																																																						

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 (宮城県立名取支援) 学校の研究概要 ~令和6年1月末現在~

運営委員氏名 (島津 真樹)

研究主題	学習指導要領と個別の指導計画の両方からつながる授業づくり〈1年次〉 ~ 三つの柱を意識した個別の指導計画の作成を通して ~
研究目標	学習指導要領の理解を深め、三つの柱に沿った個別の指導計画を作成について学び合う機会を設けるとともに、知的障害のある児童生徒一人一人に応じた工夫を取り入れた授業づくりを実践する。
研究内容及び方法	全体研修「学習指導計画を基に実態別の目標を考えてみよう」 ワークシートに沿って、学習指導計画から実態別の目標と手立てを考える体験を通して、学習指導計画の有用性や課題点を感じてもらう。 学部ごとの学び合い 学部研修の時間を活用しながら研究を進め、本校及び名取が丘校で合計9つの研究授業を計画、実施した。特に学校訪問指導では、児童生徒の段階を踏まえた目標や手立てを設定して授業づくりを行った。 研究に関する研修 ・専門性向上研修会「応用行動分析学(ABA)に基づく児童生徒理解と授業づくり」 講師：東北福祉大学教育学部教育学科准教授 和 史朗 氏 ・夏の研修会 6講座 講師：本校教員10名
●成果 ▲課題	学習指導計画の活用方法への気付き ●アンケート「個別の指導計画を作成する際に、学習指導計画を活用できそうですか？」の問いに92%が肯定的な意見だった。 ●「後期の個別の指導計画の目標や手立てを設定する際に、学習指導計画を活用しましたか？」の問いに、61%が目標に活用、33%が手立てに活用したという回答であった。このことから、具体例や手順を示すことで、活用率を上げることができるのではないかと考える。 校内研究における「L字型の学習構造」への疑問 ▲本校では、令和2年度の校内研究から学習指導要領と個別の指導計画の双方を踏まえて授業づくりを行うことが特別支援教育では大切であることを表現した図として筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校の「L字型の学習構造」を用いてきた。しかし今年度の取組を通して、学習指導計画の有用性や課題点を見つめ直したことで「L字型」は肢体不自由特別支援学校である桐ヶ丘には適切だが、知的障害支援学校の本校においては県総合教育センター「知的障害教育のためのみやぎ授業づくりガイド+」が示している「授業の構成図」のI字型の方が適していることが見えてきた。 学習指導計画に関する課題 ▲小学部から高等部まで系統性のある内容に整備する必要がある。 ▲これまで有効だった指導について引き継ぐことを目的として、略案のような様式になってきている。 三つの柱に沿った目標設定の困難さ ▲特に「学びに向かう力、人間性等」の目標設定が難しい。

研究テーマ	「児童生徒の思考力の育成を目指した指導の工夫」 ～授業実践における ICT 機器の活用方法の探究を通して～																												
研究目標	ICT 機器の活用方法について整理し、様々な指導の形態の ICT 機器を用いた授業実践を行う中で、児童生徒の思考力を育む方法を ICT 機器の活用の観点から探る。																												
研究内容・方法 研究計画等	<p>○研究内容 ※令和4～6年度（3年計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次（R4年度）：思考力の捉え方、ICT機器活用方法や活用事例の研修会を実施した。 ・2年次（R5年度）：各種研修会と各担任が本研究テーマによる研究授業の実践と検討を行い、児童生徒の思考力を育む方法を ICT 機器活用の観点から探る（3年次も同様）。 <p>○研究計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>内容</th> <th>月</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>・年間の研究内容の確認・検討 ・実態調査（諸検査）の実施について ・研究推進委員会（5月1日（月））に向けて ・校内研究日の内容について確認 ・校内研究全体会について</td> <td>10</td> <td>・演習・研修会（オンデマンド開催） 「知的障害のある児童生徒の情報活用能力とICT機器活用演習」講師：熊本大学教育学部 附属特別支援学校 教諭 後藤 匡敬 氏</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・年間の研究内容の確認・検討 ・第1回研究推進委員会 ・校内研究日の内容について確認 ・ICTに関するアンケート内容の検討 ・学習指導案（略案）の検討</td> <td>11</td> <td>・校内研究日⑥ ・研究のまとめの作成 ・校内研究の取組の反省 ・校内研究アンケートの集約、分析</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・第1回研究全体会（校内研究全体会の運営） ・職員会議（指導主事学校訪問指導、教育実習の指導案様式提案）</td> <td>12</td> <td>・学校評価検討</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・校内研究日① 「フリーボードについての研修会」 ・講師：本校情報教育部長 ※授業実践（7月～12月）</td> <td>1</td> <td>・研究のまとめの作成、検討 ・研究全体会について ・次年度計画 ・第2回校内研究全体会、研究のまとめの発表</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・校内研究日②授業検討会（各学部）</td> <td>2</td> <td>・第2回研究推進委員会 ・次年度の研究について検討 ・第3回校内研究全体会について</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・校内研究日③ 「各学部の教科や学校生活の中でのICT機器の活用状況の共有」 「Microsoft Office365を用いたパワーポイントの活用方法」講師：本校情報教育部長</td> <td>3</td> <td>・第3回校内研究全体会 ・研究集録の作成、丁合、配布 ・次年度引き継ぎ事項について確認</td> </tr> </tbody> </table>	月	内容	月	内容	4	・年間の研究内容の確認・検討 ・実態調査（諸検査）の実施について ・研究推進委員会（5月1日（月））に向けて ・校内研究日の内容について確認 ・校内研究全体会について	10	・演習・研修会（オンデマンド開催） 「知的障害のある児童生徒の情報活用能力とICT機器活用演習」講師：熊本大学教育学部 附属特別支援学校 教諭 後藤 匡敬 氏	5	・年間の研究内容の確認・検討 ・第1回研究推進委員会 ・校内研究日の内容について確認 ・ICTに関するアンケート内容の検討 ・学習指導案（略案）の検討	11	・校内研究日⑥ ・研究のまとめの作成 ・校内研究の取組の反省 ・校内研究アンケートの集約、分析	6	・第1回研究全体会（校内研究全体会の運営） ・職員会議（指導主事学校訪問指導、教育実習の指導案様式提案）	12	・学校評価検討	7	・校内研究日① 「フリーボードについての研修会」 ・講師：本校情報教育部長 ※授業実践（7月～12月）	1	・研究のまとめの作成、検討 ・研究全体会について ・次年度計画 ・第2回校内研究全体会、研究のまとめの発表	8	・校内研究日②授業検討会（各学部）	2	・第2回研究推進委員会 ・次年度の研究について検討 ・第3回校内研究全体会について	9	・校内研究日③ 「各学部の教科や学校生活の中でのICT機器の活用状況の共有」 「Microsoft Office365を用いたパワーポイントの活用方法」講師：本校情報教育部長	3	・第3回校内研究全体会 ・研究集録の作成、丁合、配布 ・次年度引き継ぎ事項について確認
月	内容	月	内容																										
4	・年間の研究内容の確認・検討 ・実態調査（諸検査）の実施について ・研究推進委員会（5月1日（月））に向けて ・校内研究日の内容について確認 ・校内研究全体会について	10	・演習・研修会（オンデマンド開催） 「知的障害のある児童生徒の情報活用能力とICT機器活用演習」講師：熊本大学教育学部 附属特別支援学校 教諭 後藤 匡敬 氏																										
5	・年間の研究内容の確認・検討 ・第1回研究推進委員会 ・校内研究日の内容について確認 ・ICTに関するアンケート内容の検討 ・学習指導案（略案）の検討	11	・校内研究日⑥ ・研究のまとめの作成 ・校内研究の取組の反省 ・校内研究アンケートの集約、分析																										
6	・第1回研究全体会（校内研究全体会の運営） ・職員会議（指導主事学校訪問指導、教育実習の指導案様式提案）	12	・学校評価検討																										
7	・校内研究日① 「フリーボードについての研修会」 ・講師：本校情報教育部長 ※授業実践（7月～12月）	1	・研究のまとめの作成、検討 ・研究全体会について ・次年度計画 ・第2回校内研究全体会、研究のまとめの発表																										
8	・校内研究日②授業検討会（各学部）	2	・第2回研究推進委員会 ・次年度の研究について検討 ・第3回校内研究全体会について																										
9	・校内研究日③ 「各学部の教科や学校生活の中でのICT機器の活用状況の共有」 「Microsoft Office365を用いたパワーポイントの活用方法」講師：本校情報教育部長	3	・第3回校内研究全体会 ・研究集録の作成、丁合、配布 ・次年度引き継ぎ事項について確認																										
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>○研究経過</p> <p><校内研究日に行った研修会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フリーボード研修会」（7月） 講師：本校情報教育部長・ICT支援員 ・「Microsoft Office365を用いたパワーポイントの活用方法研修会」（9月） 講師：本校情報教育部長 ・「知的障害のある児童生徒の情報活用能力とICT機器活用演習」（10月） 講師：熊本大学附属特別支援学校 教諭 後藤匡敬 氏 <p><校内研究日に行ったワークショップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「各学部のICT機器を活用した授業作りの実際」（9月） ・「ICT機器活用状況の共有と思考力を育む授業作り」（10月） <p><授業実践></p> <p>「思考力を育むためのICT機器活用シート」と「略案」を用いて授業実践を行った。7月からの実践を予定していたが、行事等が落ち着いた11～12月の実践が多かった。小中高、各学部合わせて11の授業実践が行われた。</p> <p>○研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究は2年目となり、ICT機器を活用した授業実践が通常となった。指導内容や生徒の実態に応じて、活用方法を吟味し、指導や支援の目的に応じた活用、思考力を深めるための活用方法の検討・実践が、研究授業や通常の指導場面で見られた。 ・生徒の変容としては、生徒自身がICT機器を使うことで学習の理解を深めたり、発表やコミュニケーションツールとして活用したりする姿が多く見られた。 ・高等部生徒を対象として、「ICT機器の活用は学習内容の理解に役立つか」のアンケートを実施した。そう思うが84%、だいたい思うが16%と、ICT機器を活用することが学習内容を理解することに役立っていると感じている様子が伺えた。 																												

令和5年度 宮城県立迫支援学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (伊藤牧子)

研究主題	「児童生徒の目標達成に向けた主体的・対話的で深い学びの授業作りの在り方」 ～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導・支援の工夫を通して～
研究目標	児童生徒の主体的・対話的で深い学びの具体的な姿について考察し、本校としての具体的な姿、捉えの共有を図り、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた、指導・支援の工夫を検討することを通して、児童生徒の目標到達に向けた主体的・対話的で深い学びの授業作りの在り方を探る。
研究の方法と内容	<ul style="list-style-type: none">・研究全体会 1年次の研究の提案 (6月)・主体的・対話的で深い学びの具体的な姿、捉えの共有化を図るワークショップ (7～8月)・VTR視聴による研究授業及び事後検討会 (9～11月)・学習指導案検討会 (10～11月)・研究授業 (11月)・研究授業事後検討会 (11月)・研究全体会 1年目の研究のまとめ (2月)・研究全体会 2年目の研究について (3月)
研究の成果	<ul style="list-style-type: none">・主体的・対話的で深い学びの具体的な姿、捉えの共有化を図るワークショップを行った。ピックアップした単元題材のそれぞれの学習内容における、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの姿と児童生徒の目標到達へ向けた視点を踏まえた手立ての工夫について、資料「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」を基に話し合い、単元題材シートに記入することができた。主体的・対話的で深い学びの視点を具体化して、迫支援学校としての具体的な姿、捉えを教員間で共有する取組の一つとして実施することができた。・計画・実施・評価・改善のサイクルを児童生徒の目標到達に向けて着実に実施し、協働で児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践を行うための取組を行った。 VTR視聴による研究授業を行い、事後検討会において、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの姿と児童生徒の目標到達へ向けた視点を踏まえた手立ての工夫について検討することができた。・主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導・支援の工夫を検討することを通して、児童生徒の目標到達に向けた主体的・対話的で深い学びの授業作りを行うための取組を行った。学習指導案様式(令和5年度版)に沿って、資料「三つの柱に基づいた目標と3観点の評価の設定のポイント」、資料「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」を参考に、学習指導案を作成・検討し、研究授業を行い、事後検討会において、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの姿と児童生徒の目標到達へ向けた視点を踏まえた手立ての工夫について検討することができた。・各種参考資料として、「学習指導案検討会の話し合いの視点」、「三つの柱に基づいた目標と3観点による評価の設定のポイント」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」を作成し、活用した。また参考図書として、知的障害スタンダード(ジアース教育新社)、新学習指導要領を踏まえた「学習評価」の工夫(ジアース教育新社)、知的障害特別支援学校における深い学びの実現(東洋館出版社)等の書籍を活用していく予定である。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 (宮城県立角田支援学校) 学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (菊池 里枝)

研究テーマ	児童生徒のコミュニケーション能力を高めるための指導の在り方 ～教材・教具の工夫と授業実践を通して～
研究目標	児童生徒のコミュニケーション能力を高めることを目指した授業実践を通して、具体的な指導の在り方を明らかにする。
研究内容・方法 研究計画等	1 コミュニケーション能力に関する児童生徒の実態把握 2 学級をベースとした研究グループを編成 3 研究グループ内で実践事例対象児を1名抽出し、実践計画を作成 4 必要に応じて、外部専門家(言語聴覚士、作業療法士、スクールカウンセラー)等を活用 5 研究グループ毎、コミュニケーション能力を高めるための指導実践 6 各実践事例のまとめ(ICTの活用や教材・教具の工夫の有効性や効果的な使い方、または課題や配慮点などを明らかにする。) 7 各実践事例の成果等の共有(実践事例報告会の実施) 8 研修会の実施(コミュニケーションに関する研修、ICTの活用に関する研修など) ※研究期間は、令和5年度から6年度までの2年間とする。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	1 研究グループ毎、コミュニケーション能力を高めるための指導実践 ・小学部6グループ、中学部4グループ、高等部7グループ、計17グループに分かれて指導実践を行った。 ・グループ毎に、授業公開を行った。 2 実践事例のまとめ ・グループ毎に、実践事例のまとめを行った。 3 実践事例報告会 ・2月に校内で実践事例報告会を実施する予定である。 4 校内研修 ①諸検査法研修会(S-M社会生活能力検査第3版)・・・4月19日に実施した。 ②「夏のミニ研修会」 ※下記の内容の研究会を、7月28日と7月31日に実施した。 ア:LDT-R「太田ステージ評価」 イ:NCプログラム「認知・言語促進プログラム」 ウ:ドロップレット・プロジェクトの紹介(視覚シンボル) エ:DropTap(ドロップタップ)の紹介(iPadを使った活用例の紹介) 5 1年次のまとめ ・今後、校内研究の全体のまとめを行い、成果と課題を明らかにし、2年次に継続する予定である。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

運営委員氏名(玉川 幸毅)

研究テーマ	各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実（2年次／2年計画） － 学習集団に応じた単元シートの活用をととして －
研究目標	学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して授業実践と学習評価の充実を図る。
研究内容 方法 研究計画等	<p>1 研究の内容と方法</p> <p>(1) 授業研究（各学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員一人一人が「単元シート」を活用した授業実践に参加する。 ・教員一人一人が一単位時間の流れを記載した「授業シート」の作成に参加し、学部内外の授業実践を共有する。 ・各学部において、単元シートを活用した研究授業（事前検討会、事後検討会を含む）を行う。その際、指導の形態や児童生徒の実態等を踏まえ、単元シートをより活用しやすく工夫する。 <p>(2) 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容の理解や単元シートの活用に関する校内研修を行う。また、学部研究の取組をまとめて発表を行い、全体で共有できるようにする。 ・教員対象の意識調査（事前、事後）を行い、結果を分析・考察する。 ・校務システムを活用して、授業実践の資料や計画を共有する。 ・研究通信を発行し、校内研究に関する様々な情報や各学部の取組などを共有することで、教員一人一人が校内研究に参画する雰囲気醸成する。 ・職員用掲示板や研究資料保存用の本棚を整理・活用し、校内研究に関する情報を共有する。
研究の概要 ・研究成果等	<p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元や題材の指導に当たる全ての教員が単元シートを活用した授業実践を行うことができた。また、実践した上で感じた単元シートの効果や疑問点などを、研究授業の検討会及び研究通信や発表などをととして共有した。 ○校務システムを活用して日々の実践を共有したり、研究通信や職員掲示板を活用して研究関連の情報を共有したりしたことで、日常的に研究テーマを意識して実践する機会が増え、研究の推進につながった。 ○多くの教員が単元シートによって、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて授業実践を行い、学習評価までをしっかりと記録・分析する意識が高まっていることが、意識調査などから分かった。 ○学部をこえて参観する機会を設けたり、放課後にビデオを視聴する時間を設定したりすることでより多くの教員で授業を共有することができた。 <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●単元シートを作成することに負担を感じている教員がいることが課題である。負担を軽減する単元シートの様式や活用方法を検討したい。また、教育課程の改善や個別の指導計画の活用など、単元シートの汎用性を高める方法を検討したい。 ●研究授業で検討することで育成を目指す資質・能力や学習評価の方法について理解を深めることができた一方で、日々の実践においては教員間で十分に共有できないことがあった。

令和5年度 (気仙沼支援) 学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (小野寺 由紀)

研究テーマ	「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた支援の在り方」 ～ 授業計画の工夫を通して ～ (1年次)
研究目標	児童生徒一人一人の適切な実態把握と、学習指導要領を踏まえた授業計画や授業の振り返りを通して、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた支援の在り方を検討・実践し、よりよい授業づくりを目指す。
研究内容・方法 研究計画等	1 研究期間：3年間（本年度1年次） 2 本年度の取組 (1) 「主体的な学び」の実現に向けた授業計画と授業づくり、授業実践 「授業計画構想シート」を活用した学習グループごとの話し合いを基に、協力して準備を行い、生徒の実態や支援方法を共有した上で授業実践に取り組んだ。 (2) 授業の振り返りと授業改善 付箋紙を用いた授業の振り返りを昨年度から継続して実践した。研究研修部から、「主体的な学び」の実現に向けた授業改善の手立てを示し、授業づくりにつなげたり、参観及び振り返りを行う際の視点として取り入れたりした。 (3) 個々の児童生徒の学習段階の把握と学習の蓄積 個々の「内容一覧表」に達成(○)または継続指導(△)を記入して学習状況を蓄積することで、各教科・領域の学習段階を正しく把握できるようにした。また、その状況から個別の指導計画の目標を設定することにもつなげた。 (4) 研修会や他学部体験の実施 校内研究研修会として、知的障害教育のための「みやぎ授業づくりガイド+ (プラス)」の活用法を学んだ。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<研究経過> これまでの校内研究の振り返りから、新研究テーマのもと、3年計画の今年度は1年目ということで、授業計画に重点をおいて実践に取り組んだ。学習グループごとに「授業計画構想シート」を使って、授業内容や支援方法について検討や共有を図りながら授業準備、実践を進めることができた。授業の振り返りについては付箋紙を使って行い、教員同士で様々な意見交換を行うことで、授業改善につなげることができた。内容一覧表を使っての学習状況の蓄積は、その状況を踏まえ個別の指導計画の目標設定の目安としたり、引継ぎ資料として活用したりしている。校内研究研修会では、学習活動(指導内容・方法)設定シートを使って、児童生徒の生活の様子や学んでいることを生かしている姿を整理し、指導内容や指導方法について考える研修を行い「授業計画構想シート」の様式に生かすこともできた。 <研究成果> 年度初めには、内容一覧表の引継ぎをし、担当生徒の学習状況の把握を行い、それを基に個別の指導計画の目標設定へとつなげることができた。今後も継続し、生徒一人一人の学習状況が分かるように蓄積を行っていく。 授業計画では、題材を通して生徒に身に付ける力が共有できるように、「授業計画構想シート」を使って、目標や評価規準、中心となる学習活動、全体の学習活動の流れを確認し、そこから1単位時間ごとの学習内容を具体化していき、生徒一人一人への支援内容について意見を出し合い、授業実践につなげることができた。また、授業づくりでは、「主体的な学び」の実現に向けた授業改善の手立てを参考に支援方法を考えて実践につなげたり、教員同士の授業の振り返りの視点として提示して確認したりすることができた。 授業の振り返りについては、今年度も教員一人一人に振り返り板を準備し、今年度の校内研究の取組が確認できるようにして取り組んだ。付箋紙を使って行うことで、様々な意見をもらうことができ、それらをすぐに授業者と確認し、授業改善につなげることができた。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 (宮城県立古川支援) 学校の研究概要 ~令和6年1月末現在~

運営委員氏名 (菅原 一禎)

研究テーマ	生活する力を高めるための自立活動の工夫 ~自立活動の理解の深化と指導すべき課題の明確化を目指して~
研究目標	1 特別支援教育における自立活動の意義や学習指導要領における考え方について理解を深め、児童生徒の学習上又は生活上の課題の克服を図る。 2 自立活動の個別の指導計画の様式を整え、児童生徒の実態把握と課題の整理、具体的な指導内容の決定、評価の流れの共通理解と効果的実践を図る。
研究内容・方法 研究計画等	1 実践研究 (学部研究) ・自立活動の基本的な考え方について学ぶ研修会、学習指導要領について学ぶ研修会、他学部の実践について学ぶ発表会の三つの学びの場を設定し、自立活動の基本的な部分について学校全体で共通理解を図る。 2 個人研修 (グループワーク) ・グループで抽出児童生徒一人を決め、6月、7月、11月にワークシートを通してのグループワークを実施する。その中で、自立活動についての効果的な計画の立案や指導、評価、引継ぎの仕方、また、自立活動の効果的な話合いの方法について学ぶ ・自立活動についての共通理解と組織的に児童生徒の指導に関わっていくチーム力を高める。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	1 基礎研究 ① 校内研究研修会1 (5月) 「特別支援学校における自立活動の指導」 (講義) 講師: 県総合教育センター 黒川浩也指導主事 ・自立活動の目標やその指導に充てる授業時数の考え方、その取り扱いや課題等について丁寧に説明をいただいた。研修の成果として、自立活動の基本的な考え方を確認、共有できた点大きい。そして学びを深めていく中で、日々の指導に生かせる実践的な研修の必要性についても意識が高まった。 ② 校内研究研修会2 (8月) 「自立活動の学習指導要領を学ぼう」 ・研究主任が学習指導要領解説自立活動編と前指導要領からの改善点等について解説をした。その後、グループに分かれ、学習指導要領解説自立活動編を活用して、各小グループで抽出した児童生徒について自立活動の目標を達成するために大切だと考えるキーワードや、参考となる事項を共有するグループワークを行った。特に学習指導要領の6区分27項目の解説について読み合わせ、児童生徒の個々の実態に合わせた具体的な指導内容について話合いを行うことができた。 ③ 校内研究研修会3 (11月) 「自立活動の学習指導要領を学ぼう」 ・自立活動の実態把握や目標設定、具体的な指導内容や方法等について、校内の実践から学ぶねらいで、各学部の自立活動の実践についての発表会を実施した。

	<p>・研修会後、発表の抽出児童生徒への指導について、教師同士でアドバイスや意見交換など行っている場面も見られ、会が効果的に開催されたことがうかがえた。</p> <p>2 実践研究</p> <p>・グループワーク 1 (6月) (自立活動シートを用いて抽出児童生徒についての、実態把握、困難の背景、仮説、長期目標の設定についての検討)</p> <p>・グループワーク 2 (7月) (自立活動シートを用いて抽出児童生徒についての、指導目標から、具体的な指導内容、指導場面の設定についての検討)</p> <p>・グループワーク 3 (11月) (自立活動評価シートを用いて抽出児童生徒についての、実践の評価と次年に引き継ぐ内容の検討)</p> <p>研究の成果</p> <p>自立活動についての基礎の理解に焦点を当て、全体で共通理解を図りながら進めることを目指した。学校全体で一定の成果が見られ、より具体的な内容について学んでいきたいという意識も高めることができた。</p> <p>自立活動は特別支援学校の教育活動全体を支える大切な部分であるが、児童生徒の実態や障害の程度によりその実践内容や方法は大きく異なってくることにその難しさがある。そのため、多様な側面から児童生徒の障害からくる困難さに目を向け、改善方法について模索していく教師集団作り、また成果や課題を適切に評価して次年に引き継いでいく意識作りが今後とも必要である。成果(○)と課題(△)は以下の通りである。</p> <p>○基礎研修を通して、自立活動の基本的な考え方の共通理解を図り、学習指導要領の活用の仕方を学ぶことができた。</p> <p>○学習指導要領を活用して自立活動の指導内容や手立てを検討することができた。</p> <p>○実践研修として行ったグループワークを通して、自立活動についての実態把握から評価までの道筋を理解することができた。</p> <p>○グループワークの事前にデモンストレーションを行った。目的にそった話合いの方法を共有することは有用であった。</p> <p>○話合いにより、児童生徒を様々な角度から捉え、課題の原因を探究し、具体的な指導方法を考え、実践したことは有益だった。</p> <p>○児童生徒の課題や成果について知る機会となり、普段から教師間で話し合うことが増えた。</p> <p>○他学部の実践について知る機会となり、抽出児童生徒についての理解が深まり、実態や自立活動の課題を踏まえて教師の関わり方を改善することができた。</p> <p>△実践的な指導事例や具体的な指導方法(コミュニケーション、視覚支援、スケジュール、応用行動分析等)について、研修する機会が必要である。</p> <p>△学部や学年で児童生徒の自立活動について話し合う時間の確保が必要である。</p> <p>△ワークシートの様式の整理が必要である。</p>
--	--

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 支援学校小牛田高等学園 の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (五十棲 康紘)

研究テーマ	社会的・職業的に自立する力を育成するための指導の在り方を探る ～ICTを取り入れた指導をとおして～
研究目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が社会人としてよりよく生きるために、課題や困難を改善し、社会参加に関わる資質を養う力を付ける。 人と「かかわる」、より良い生き方を「もとめる」、社会での役割を「はたす」ことができるような力を付ける。
研究内容・方法 研究計画等	<p>4月24日 研究全体会①</p> <p>6月22日 スキルアップ講座①(本校課題に関する講座)</p> <p>7月 6日 校内研究日①(グループごとによる情報交換)</p> <p>7月から9月 授業力向上研修(授業実践)</p> <p>9月21日 校内研究日②(グループごとによる授業検討)</p> <p>10月19日 スキルアップ講座②(特別支援教育に関する講座)</p> <p>11月30日 校内研究日③(グループごとによる情報交換)</p> <p>2月 8日 校内研究日④(グループごとによる研究成果発表)</p> <p>3月 9日 研究全体会②</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>「社会的・職業的に自立する力を育成するための指導の在り方を探る」を主題とし、新たに3年計画で研究実践を行うこととした。副題は、研究最終年を「ICTを活用した主体的な学びの指導をとおして」と位置付け、年次進行で実践と改善を重ね、教員のICT活用指導力向上と生徒の変容を探っていくこととした。なお、今年度の副題は「ICTを取り入れた指導をとおして」としている。</p> <p>主な実践として、ICTの利活用を取り入れた学習指導案(略案)を全員が作成し、それをもとに授業実践を行った。また、機器の取り扱いの得手不得手を考慮したグループを設定し、事後検討会や情報交換の機会を定期的に設け、お互いの考えを共有し、以後の授業実践や改善に生かすことができるようにした。</p> <p>校内研究日の情報交換では、ICT機器の扱いに長けている教員が中心となって行ったことで、利活用に関する悩みを共有したり、必要に応じて具体的な指導方法についてアドバイスを送り合ったりする場面が多く見られた。また、PDCAサイクルによる継続した実践を行ったことで、授業にICTを取り入れただけでなく、生徒がどのように使い、学びを得ることができるかを意識して授業展開する教員の姿が多く見られるようになった。生徒の変容としては、ICT機器を使って学んだことで、学習の理解を深める姿が見られたことが大きな成果となっている。</p> <p>今後は本研究を継続し、ICT教育によって生徒の社会的・職業的自立の力を培うことができるようにしていきたいと考える。</p>

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 (宮城県立利府支援) 学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (星 嘉憲)

研究テーマ	「児童生徒の実態に応じた資質・能力の育成を目指した指導の在り方を探る」 ～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善を通して～
研究目標	学習指導要領の理念、内容について共通理解を図るとともに、児童生徒に身に付けさせたい資質能力を共有しながら授業改善に取り組み、児童生徒の実態に応じた資質能力の育成を目指した指導の在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画等	研究の内容 (1) 学習指導要領についての研修を通して教員一人一人の理解を深め、研修の内容に基き授業改善、授業づくりの方法を確認する。 (2) 「主体的・対話的で深い学び」においてそれぞれの学びの姿を具体化し、授業づくりに生かす。 (3) 研修会の内容を基に授業づくりを行い、学部ごとに研究授業（年内に3授業）を行う。 研究の方法（2年次） (1) 「学習指導要領」、「主体的、対話的で深い学び」についての研修会 「学習指導要領」、「主体的、対話的で深い学び」について研修会を行い、教員間で学習指導要領で求められている子どもに身に付けさせたい資質、能力について改めて共通理解を図り、研修の内容に基づいた授業改善、授業づくりの方法を確認する。 (2) 研究授業（指導案検討会、事後検討会含む）（6～12月） 研修会の内容を基に授業づくりを行い、学部ごとに研究授業を行う。（学部ごと3回実施） (3) 実践報告の作成（1～3月） 研究授業、事後検討会等、今年度の取り組みを学部ごとにまとめ、成果、課題を来年度につなげられるよう実践報告としてまとめる。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	今年度は、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善への取り組みの2年目となり、1年目の成果をもとに、各学部の研究授業の回数も3授業と増やし実践した。事前事後の検討会では、教員間の話し合いによるアイデア、意見、感想等とその後の指導にうまく生かそうとする意識が芽生えてきている。3年目のまとめに向けて研究を充実させる年であるため、教員間の共通理解を進めながら「児童生徒の実態に応じた資質・能力の育成を目指した指導の在り方」を探っていきたいと考える。 成果としては、授業改善の視点や考え方を校内教員で共有することができたことと考える。学部の教員間で研究授業についてのアイデアや工夫、今回の研究のキーワードについて意見を出し合い、3つの柱に基づく学びについて具体的に考えながら授業づくりに取り組むことができたことは、学習指導要領の内容を意識しながら、児童生徒の実態に応じた資質・能力の育成への日々の実践のヒントにつながったとも感じている。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 宮城県立支援学校岩沼高等学園の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (熊谷 穂乃花)

研究テーマ	「働き続ける力を育て、職業的自立を目指した自立活動の在り方」 ～指導内容確認シートを活用した授業づくりを通して（1年次）～
研究目標	1人ひとりの実態に応じた自立活動の指導内容を確認し、働き続ける力を育てるための指導の在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画等	(研究内容・方法) (1) 実態に応じた指導内容の設定 (2) 自立活動グループ研修会 (3) 授業内容の研修 (4) 授業内容の蓄積 (研究計画) ・研究全体会（4月、10月、3月） ・自立活動研修会（通年：全7回） ・校内授業研究会「授業を見る会」 （9月：3学年、10月：2学年、2月：1学年 全3回） ・専門性向上研修会（11月） ・指導主事学校訪問（12月）
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	(1) 学習指導要領の自立活動の内容について研修し、実態把握の必要性を確認した。また、職場実習での課題について情報を共有し、自立活動の時間の指導のグループ毎に抽出生徒を決め、本校独自の様式に自校化した自立活動の流れ図「職業的自立を目指す自立活動指導内容確認シート」と「授業実践シート」を作成した。自立活動の時間の指導は自立活動に関する個別面談に基づいてグループを決め指導にあたった。 (2) 縦割りの小グループを編成し、自立活動研修会を実施した。「授業を見る会」にあたり作成した資料をもとに、指導するグループの実態や抽出生徒の指導の根拠、授業内容を確認した。事後検討会の内容については研究全体会で共有を図った。 (3) 9月に3学年、11月に2学年が自立活動の研究授業を提供した。各学年の全グループの教員が授業を提供し他学年の教員が授業を参観した。 (4) 自立活動の理解を深めるとともに、時間の指導について指導内容の蓄積を進め、次年度以降の指導に向けた参考資料として蓄積した。 (成果と課題) ○自立活動の時間の指導において、職場実習の課題を含んだ内容での自立活動の指導の工夫が見られ、働き続ける力を育む指導が意識できた。 ●生徒の課題について整理した内容を多くの教師が共有し、教育活動全体の場面において生徒に応じた「働き続ける力」を育てるための指導をさらに充実させていく必要がある。

研究テーマ	個に応じた指導・支援の充実を目指して ～少人数グループの学び合いと事例研究を通して～
研究目標	事例研究と少人数グループでの学び合いを通して、児童生徒一人一人の実態に応じた指導・支援の在り方や工夫・改善について探る。
研究内容・方法 ・研究計画等	<p><研究内容・方法></p> <p>1 事例研究レポート</p> <p>「一人一事例」の事例研究を行う。テーマは、各自が取り組みたい教科・領域とし、個別の指導計画や個別の教育支援計画と関連付けて設定する。研究の概要を記した「エントリーシート」を各自持ち寄り、少人数グループでの話し合いや学び合いを経て研究に取り組んでいく。担任以外の教員は、担当する業務内容の課題や効率化を図る手立て等をテーマとする。</p> <p>2 少人数グループでの学び合い</p> <p>研究を進める単位として、学部や教育部門の垣根を越えた少人数のグループを設定する。各グループには主幹教諭、学部主事、副主事等をファシリテーターとして配置し、学び合いを促進する役割を担う。経験年数や所属学部が分散するようにグループを編成し、メンバーの様々な考え方に触れて新しい見方や教員間のつながり、学び合う意識を醸成する機会とする。</p> <p>3 教員間の情報交換と学び合い</p> <p>事例研究報告会（2月）を設定し、それぞれの実践をポスターセッション方式で報告し合い、情報を共有する。これらに加え、自主的な校内研修「ヤマリク」も取り入れている。全職員で学びたいこと、身に付けたい技術などをワールドカフェ形式の研修会で出し合い、内容やジャンルによってグルーピングし、具体的な内容を決定して『学び合う』研修を進めた。</p> <p><研究計画></p> <p>4月 研究全体会（今年度の方向性の確認）</p> <p>5月 実態把握研修会 (S-M生活能力検査、遠城寺式乳幼児発達検査、PVT-R)</p> <p>5月～1月 それぞれの研究、グループごとの活動（～1月）</p> <p>2月 事例研究報告会</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<p>1 成果と課題</p> <p>① 50代60代の職員が全体の56%と年齢に偏りがあることや、学部所属人数に偏りがあるため、等質なグループ編成が難しかった。</p> <p>② 「ヤマリク」は、ICT活用、山元町の人・物・事調査、物作り、調理実習系、手話、陶芸、絵画、モルックの8グループで実施できた。</p> <p>③ 各グループでの研究内容を整理し、学校全体の方向性として提示し、共有することができた。自閉スペクトラム症の児童生徒の増加に伴い、課題意識の高まりが認められた。</p> <p>④ 郵送された各種研修会を職員室掲示板で紹介するだけでなく、WEB情報を校務システムで職員に紹介できた。</p> <p>2 次年度の取り組み</p> <p>① 所属や年齢構成の偏りを考慮し、次年度も少人数グループでの研究を推進する。</p> <p>② 次年度も「ヤマリク」を継続し、職員間で自主的な学び合いの場を設定する。</p> <p>③ 次年度の研究は「自閉スペクトラム症」がテーマの方向性の一つとして考えられる。研究や実践に生かせるような研修会を企画する。</p> <p>④ 職員の自主的な学びや専門性の向上を促すため、校内研修会等の年間予定や県教委から示される情報等も提示する。</p>

令和5年度 宮城県立小松島支援学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (野呂 祐樹)

研究テーマ	「児童生徒一人一人を大切にした生活単元学習の工夫」(3年次) 「評価・改善シート」を活用した目標設定と手立ての工夫を通して
研究目標	「各教科等を合わせた指導」の意義と各教科等の指導内容との関連について理解するとともに、的確な実態把握や目標設定、手立ての工夫を通して、個の実態に即し、適切に個の能力を引き出すよう生活単元学習の指導の充実を目指す。
研究内容・方法 研究計画等	(1) 学習指導要領に基づく生活単元学習の授業作りに関する研修会を実施する。 (2) 各教科等との関連を意識した生活単元学習の授業計画作成と実践を行う。 (3) 小・中・高の各学部内で同じ題材(校外学習や季節の制作、調理活動などを同じ系統の題材を通してなど)ごとにグループを作り、研究授業と事後検討会を実施する。 (4) 「評価・改善シート」を活用して児童生徒の個人目標の評価と手立ての工夫について検証し、授業の改善を行う。(個別の指導計画との関連性、個に応じた指導の手立ての工夫、目標設定など児童・生徒の取組を主体とした視点で研究を行う) (5) 学部ごとの研究授業と事後検討会で得られた成果と課題をまとめ、次の指導計画の作成に生かせる実践事例集を作成する。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	(1) 研究経過 【1年次】令和3年度 ・基礎の共通理解：全体での取組 【2年次】令和4年度 ・1年次に見付かった課題を踏まえた授業計画と実戦(学部中心) 【3年次】令和5年度 ・学部ごとの取組：児童生徒の取組に視点を置く。 ・各教科を意識した生活単元学習の授業計画と実戦 (2) 研究成果 ・各教科等との関連を明らかにして、生活単元学習の計画と実践ができた。 ・各学部においてグループごとに同じ題材で研究授業、事後検討会を実施し、次の授業におおむね生かすことができた。 ・「評価・改善シート」を活用することで児童生徒の個人目標について評価し、改善点を見出して次の授業改善につなげることができた。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 宮城県立支援学校女川高等学園の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (深 沼 順 一)

研究テーマ	社会的・職業的に自立する力を育てる指導の在り方 (2年次/2年計画) ～個と集団を意識した取組を通して～
研究目標	3年間全寮制で高等部のみの知的障害特別支援学校であり、企業就労を目指した産業技術科としての教育課程を実践する本校の特色を生かし、集団(他者との関わり)の中で個を伸ばす実践を通して「社会的・職業的に自立する力」を育てる効果的な指導の在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画	(1) 研究の内容・・・社会的・職業的に自立する力の育成を目指した研究 ① 「自立活動指導計画シート」と「生徒実態調査表(現場実習評価を基に教師が作成)」による生徒個々の実態や課題を「基礎的・汎用的能力」と結び付けながら、指導する内容等と実践に関する共通理解 ② 「個別目標設定」, 「学習内容」の確認と「振り返り(評価)」への生徒本人の参加 ③ 実践の累積と共有 (2) 研究の方法・・・学校と寄宿舎の連携による研究推進 ア 学校での実践 ・「自立活動の目標」に加え、キャリア教育の視点による「基礎的・汎用的能力」の育成も視野に入れた、個を意識した集団での多様な学習活動を通じた取組。 イ 寄宿舎での実践 ・「自立活動の目標」と関連付けながら、生徒個々の実態と課題を明らかにし、自立に向けて必要な力の育成を目指す取組。 (3) 研究研修会の実施・・・研究主題に関連した研修 (4) 授業研究の実施・・・年に数回の実施により、研究主題に迫る授業内容や指導内容の検討を通して教職員相互の資質向上を目指す取組 〔研究計画〕 1年次(令和4年度)～集団と個のつながりを意識した自立活動の実践を通して～ 2年次(令和5年度)～個と集団を意識した取組を通して～
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	(1) 学年を基盤とした実践の積み重ね 今年度は、昨年度より継続している「自立活動」の実践に加え、「社会的・職業的に自立に向けて必要な基盤となる能力」であるとされる「基礎的・汎用的能力」の「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成も視野に入れながら、各学年の実態に合わせた取組を実践してきた。 1学年は「自己理解・自己管理能力」に焦点をあて、自立に向けた自己の課題に気付くことを目標とした実践を行った。2学年は「人間関係形成・社会形成能力」に焦点をあて、集団の中でコミュニケーション能力の向上を図りながら自分の課題に向き合う実践を行った。3学年は「自己理解・自己管理能力」と「人間関係形成・社会形成能力」に焦点をあて、生徒個々の課題に対し、多方面から実践した。寄宿舎では、毎日の引き継ぎ簿を自立活動の目標に関連付け、寄宿舎生活全体を通して各学年の実践に取り組んできた。 (2) 研究研修会の実施 宮城県総合教育センター長期研修員の研究成果物、「みやぎ授業づくりガイド+ (プラス)」を活用した研修会を実施した。生徒個々の実態(興味・関心、障害特性、ニーズ等)に関する情報共有を行った上で、キャリア発達段階及び取り巻く環境「場・人・もの」との関連を明らかにして、必要な学習内容を検討する手順について、ワークショップを通し理解する研修内容であった。 (3) 授業研究の実施 ① 第1回研究授業 国語(3学年) ② 第2回研究授業 専門教科 食品製造コース(2学年)

令和5年度 西多賀支援学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (佐藤 智幸)

研究テーマ	「児童生徒の可能性を広げ、育む授業づくり ～ライフステージに応じたキャリア教育の視点から～」
研究目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズについて、「ライフステージに応じたキャリア発達」の視点での課題意識をもち、授業実践と授業改善をとおして、児童生徒の可能性を広げ育む授業づくりを目指す。
研究内容・方法 研究計画等	<p>キャリアの視点</p> <p>授業実践・参観 ・【キャリアの視点】を意識した授業実践 ・小グループで互いの授業を参観し合う</p> <p>参観シートによる意見交換 参観シートによる意見交換を行い、 授業改善に生かす</p> <p>授業実践前のグループ活動 略案をもとに、目標や評価の妥当 性等について小グループで意見 交換をして実践に生かす</p> <p>【キャリアの視点シート】の活用 キャリア教育で育成すべき力【基礎的・汎用的能力】を 基に、児童生徒に付けさせたい力を明確にする 【キャリアの視点】を書き入れた略案の作成 【キャリアの視点】を明確にもち、その授業で伸ばした い力をキャリアの視点で捉える</p> <p>現職教育研修 キャリア教育の基礎を学ぶ(共通理解)とともに、 指導技術・知識の習得を図る。</p>
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	<ul style="list-style-type: none">・キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を基に「キャリアの視点シート」を作成し、対象児童生徒に特に身に付けさせたい力についてキャリアの視点で整理することで、共通の視点をもってスタートすることができた。・対象児童生徒の実態によりメンバー編成した研究グループ活動と、【キャリアの視点】を意識した授業づくりを中心に置き、研修会では「キャリア教育」の基礎を学び指導技術・知識の習得を図った。・研究グループ活動では、児童生徒の教育的ニーズをキャリア教育の視点でどのように捉えたらよいか話し合ったり、略案をもとに目標や評価の妥当性等について意見交換を行ったりした。【キャリアの視点】を意識した授業づくりに初めて取り組む教師も多かったが、小グループ内で互いの授業を参観し合い参観シートによる意見交換を行うことで、授業改善に生かすことができた。・児童生徒の年齢や障害の重さに関わらず、それぞれの将来の姿をできるだけ具体的にイメージし、常にキャリアの視点を意識しながら授業づくりを行うことが重要であるという意識を高めることができた。

令和5年度 (宮城教育大学附属特別支援学校) 学校の研究概要 ~令和6年1月末現在~
運営委員氏名 (菅原しのぶ、梅津直哉)

研究テーマ	「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり ～「経験」から「理解」そして「学びの自己調整」へのプロセスを通して～ (3年目副題)
研究の目的	「個別最適な学び」を実現するために必要となる、授業づくりの視点を明らかにするとともに、個々の児童生徒の「教育的ニーズ」に基づいた授業づくりのプロセスとその有効性の検証を行う。
研究内容 ・方法 研究計画等	1) 研究期間：令和3年度から3年間 2) 内容と方法 (本年度は3年次) 【1年次】 (R3年度) 指導の個別化 1 「授業づくりシステム」の作成と活用 2 「教師の学び合い」を生かした授業づくり 3 「個別最適な学び」を目指した授業実践 【2年次】 (R4年度) 学習の個性化 1 「学習の個性化」の視点を踏まえた授業づくり 2 「授業づくりシステム」改め、「M-FOCUS」としての機能の充実 【3年次】 (R5年度) 学習者自身による学びの自己調整
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	○研究経過 ・ 6月：公開研究会 「個別最適な学び」の実現を目指した授業づくり～「学習の個性化シート」活用の授業プラン～について、研究成果を発表した。 ・ 9月：校内授業研究会Ⅰ 「学習者自身による学びの調整」を引き出す授業づくりを目標として、各学部1つずつ授業を提供し、授業研究を行った。 ・ 12月：校内授業研究会Ⅱ 「学習者自身による学びの調整」に至る3つのステップである、「経験」「自己理解」「自己調整」の視点に沿って各学部1つずつ授業を提供し、授業研究を行った。 ○成果 ・ 「学習者自身による学びの調整」を引き出すための12年間の連続的な学びを形成するうえで、「経験」「自己理解」「自己調整」の3つのステップを意識して授業づくりを行うことで、段階的に子供たちが学びを調整する姿を引き出すことができた。 ・ 知的障害のある児童生徒にとっての「学習者自身による学びの調整」を授業づくりに効果的に取り入れる5つの視点として、「意欲」「経験」「行動」「選択」「調整」に整理を行い、授業づくりに生かすことができた。 ・ 3年間の研究を通して、知的障害のある子供にとっての「個別最適な学び」の実現を目標として、授業づくりの視点の整理や、学習情報の集積を目標としたデータベースを活用した授業づくりのプロセスなど、本校としての授業づくりの形を明確にすることができた。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

令和5年度 仙台市立鶴谷特別支援学校の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (主幹教諭 早坂敬也)

研究テーマ (2年計画2年目)	「自分から学ぶ児童生徒を育てる授業づくり」 － 「各教科等を合わせた指導」の授業研究を通して －
研究目標	本研究の目標は、「各教科等を合わせた指導」において、アセスメントに基づいて自分から学ぶ姿を明確に設定し、物理的、人的支援環境整備を視点とした授業づくりにグループで取り組むことで、自分から学ぶ児童生徒を育てる授業づくりの在り方を探る。
研究内容・方法 研究計画等	主な内容 ① 研究の視点に関する研修会 ② 学習指導要領に基づいた学習指導案様式の提示 ③ 学部・課程グループでの授業づくり ④ 研究授業のオンデマンド配信 ⑤ 「自分から学ぶための環境づくりの工夫」事例シートの作成 ⑥ 「自分から学ぶための環境づくりの工夫」マップ作成 ⑦ 研究部通信での情報発信 ⑧ 関連する書籍の購入、紹介
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	〈全体の成果〉 ①自分から学ぶ姿や場面を具体的に設定したことにより、責任感や自信を持って学ぶ姿が多く見られるようになった。 ②事前検討会を2回に分けて実施し、2回目の検討会で環境づくりの工夫のアイデアを出し合ったことが、授業者の授業づくりのサポートの役割を果たし児童生徒の変容につながった。 ③各教科等を合わせた指導における授業づくりに取り組んだことで、授業と学習指導要領における各教科等の内容との関連への意識が高まった。 ④今回の研究主題設定に当たっての教員へのアンケート調査(R3年度末)の中で、本校の課題であった項目の変容を尋ねたところ、約6割の教員が「過保護過干渉、支援過多」が改善したと答えている。校内研究の継続した取組が、教員の指導力向上に寄与し、児童生徒の姿の変容につながったことを示していると考ええる。 ⑤後期研究授業のオンデマンド配信によって、本校の自分から学ぶ姿を目指す授業づくりや環境づくりの工夫のアイデアを発信できた。 〈今後の課題〉 ・校内の教育課程を、学習指導要領に基づいて見直すべきである。 ・特別支援教育における基本的な授業づくりの共通理解を図る機会が、今後も必要である。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。

[支援学校研究報告様式]

令和5年度 いずみ高等支援学校の研究概要 ～令和6年3月現在～

運営委員氏名（佐伯 敬之）

研究テーマ	本校におけるタブレット端末を中心としたICTの効果的な活用
研究目標	本校におけるタブレット端末を中心としたICTの効果的な活用を探る。
研究内容・方法 研究計画等	1年目を研修の年とし、GIGAスクール構想や新学習指導要領、先行研究を読み解くなどしてタブレット端末を活用する上での基礎知識や理解を深めていく。 2年目を実践の年とし、本校におけるタブレット端末を中心としたICTの効果的な活用を探るために実践を行い、その成果や課題等をまとめる。
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	今年度は2年計画の2年目に当たる。1年目に得た知識等を基に、ICTの効果的な活用を探るために授業実践や教育実践を行った。 また、夏には外部講師を招いて「ICTについての研修会」を設定し、研鑽を積む機会を持ち、授業実践や教育実践に生かした。 その成果や課題等を授業実践集録にまとめた。

令和5年度 支援学校 仙台みらい高等学園の研究概要 ～令和6年1月末現在～

運営委員氏名 (福田 陽香)

研究テーマ	アセスメントを活用した個別の支援 ～心理師のコンサルテーションと実践～ (3年次/3カ年)
研究目標	1) アセスメントを活用した個別の支援、環境設定ができる(3年次) 2) アセスメントを活用し、自立活動支援、環境設定ができる(寄宿舎)
研究内容・方法 研究計画等	【内容及び方法】 1) アセスメントを活用した個別の支援、環境設定ができる(3年次) 検証方法①：ケース会議時に検証 検証方法②：研究授業及びケース検討時に検証(常勤教員) ※研究授業は録画し全教職員が確認できるようにする。 2) アセスメントを活用し、自立活動支援、環境設定ができる(寄宿舎) 検証方法：ケース検討及び寄宿舎行動観察時に検証 【計画】 4月 障害基礎研修 5月 ケース会議 6月 寄宿舎検証/ケース検討 7月 ケース会議/ケース検討/研究授業 8月 発達障害児・者の支援者のための基礎研修/心理師による全体研修/ ケース会議 9月 ケース会議/ケース検討 10月 寄宿舎検証/ケース検討 11月 ケース会議 12月 研究授業/寄宿舎検証/ケース会議/ケース検討 1月 ケース会議 2月 ケース会議/ケース検討 3月 まとめ ①検証結果 ②考察 ③対策 他
研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等	・ケース会議は学校全体から2人、ケース検討は各クラス1人、寄宿舎検証は男女2人ずつ抽出し、課題解決に向けた支援、指導について学校教職員と寄宿舎職員で協議を行った。 ・ケース検討やケース会議で協議した内容を基に、研究授業を行った。授業後はFBを実施し、指導、助言を活かし、更なる支援力向上を目指し課題の洗い出しを実施した。 ・寄宿舎検証は設定した自立に必要な課題に対して、支援、環境設定を行うことによる変容を記録し、その成果について協議した。検証後は、教員の助言を基にし、日常の指導・支援に活用。定期的に評価、見直し、実践を繰り返した。 ・3月には「アセスメントを活用した個に応じた支援を行うことが生徒の理解や行動の改善にどのような影響をもたらすのか」について成果をまとめる予定。

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。